

## 2Y-07 基礎教育における情報関連用語に対する学生の認識

立花 厚子\*、 山内 美恵子\*\*、 二宮 玲子\*

\*日本女子大学 理学部・コンピュータセンター兼務

\*\*日本女子大学 人間社会学部・コンピュータセンター兼務

### 1. はじめに

IT革命などの急激な変動により、学生の個人的な情報環境にも変化が生じ、携帯電話やパソコンなどの情報機器を所有している割合も多くなっている。最近の学生にとって、情報関連の知識やパソコン操作に関しても日常的な事柄になっていると考えられるが、学生は知識や要求の意識を満たしているか、実際にどの程度の知識があるかを確認し、今後の授業に役立てることを目的とした。

そこで、1991年に行った情報関連用語についての調査を基にして、26個の関連用語について、知っているかの知識と知りたいかの要求の認識を把握した。さらに知識を確認するために、用語に対し選択回答させた結果を基に、現状を捉えたので報告する。

### 2. 調査方法

調査対象者とその時期および方法について、以下に述べる。

#### 2-1. 調査対象および調査時期について

1991年の調査は、目白と西生田両キャンパスの学生403名に対し行ったが、今回の調査は、2000年前期と後期の目白キャンパスと西生田キャンパスのクラス単位に行った。(表1)

調査1は主に意識についての用語に対するアンケートであり、調査2は同じ用語の選択回答のテスト形式で行った。無記名者および実施しない場合もあり、調査1と2の両方を実施してきた学生は理学部の34名だけであった。

#### 2-2. 調査方法について

調査1は、目白においては、図1のようなWebで行った。クラスごとにパスワード認証を設定し、

調査の前に知らせて回答させた。西生田においては調査用紙を用い、調査項目についてはA4用紙1ページで収まる範囲にした。

表1 調査の対象人数

所属	調査1	調査2	合計
家政学部	68	33	101
文学部	42	83	125
人間社会学部	54		54
理学部(物生)	50	37(34)	87(34)
合計	214	153(34)	367(34)

そのため内容は、コンピュータを始めた学習時期、パソコンの所有の有無、インターネットの自宅での接続とメール・WWWの利用と頻度およびコンピュータ関連用語についての知識と要求の度合い、コンピュータ知識の満足度についてである。

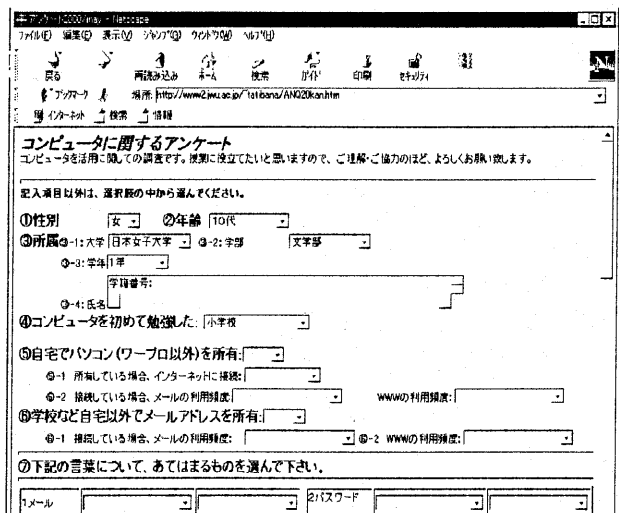


図1 CGIによる調査のWebページ

調査2は、用語を並べた解答欄に対し、解答群には用語を説明した文を記述して、用語に当てはまる意味や内容を解答群から選択して解答させた。

### 3. 結果および考察

対象者全体について集計を行い、主に情報環境と情報関連用語の理解について述べる。

#### 3-1. 情報環境について

まず、パソコンの所有およびインターネットの接続状況であるが、パソコン所有率は1991年では31.1%、現在は80%に近く、その内70%はインターネットに接続している。大学の授業で初めて学習したのは30%強であり、それ以外は何らの形で経験している。自宅でのメールやWWWは、約65%の学生が週1回以上利用している。

一方、携帯電話によるメールの利用率は80%以上であり、1日2回以上メールを利用している学生は80%近くおり、WWWを利用していないのは約43%になっている。

#### 3-2. 関連用語に対する意識と理解について

次に26個のコンピュータ関連用語についてであるが、1991年の“知っている”割合と今回の調査した割合と要求、およびその理解テストを図2に示す。知識は“説明できる”、“知っている”の2段階までの合計率であり、要求は“深く知りたい”、“知りたい”までの2段階の合計率である。また、理解テストの採点は複数正解が2個と1個のものがあるが、1用語2点満点で計算し直した正解率である。

1991年の知識と比較すると、環境によって個人の意識は左右されているようである。

コンピュータの知識の満足度が約10%だったことからわかるように、要求においてはパスワードとクリックを除いて全て60%以上であった。

理解テストの正解率が60%以上は、パソコン・パスワード・ダウンロード・クリック・フリーソフト・ウィルス・ハッカーであるが、知識との差が約50%以上はウィルス・ハッカー・フリーソフトであり、学生の意識と実際の理解は一致するとは限らない。

#### 4. おわりに

1991年でも今回でも、環境に左右されて多く使用される用語などでは理解度は高いが、専門的な用語では理解度は高くないことがわかった。また、必ずしも意識と理解は一致していないようである。今後、調査方法などを検討しつつ、調査結果を教育現場に反映していく予定である。

なお、今回の調査にあたり、電気通信大学(人間社会学部非常勤講師)内海彰先生にご協力をいただき、ここに謝辞を述べさせていただきます。

#### 【参考文献】

山内美恵子, 立花厚子: 情報教育における学習意識とその確認, 平成12年度情報処理研究集会講演論文集(Dec.2000)

立花厚子, 山内美恵子: 情報教育における充実感の確認～1991年の調査と現状より～, 平成12年度第14回私情協大会発表予稿集(Sep.2000)

立花厚子, 二宮玲子他: Analysis of the Effective Use of Electric Mail, 日本女子大学紀要理学部第3号(1995)

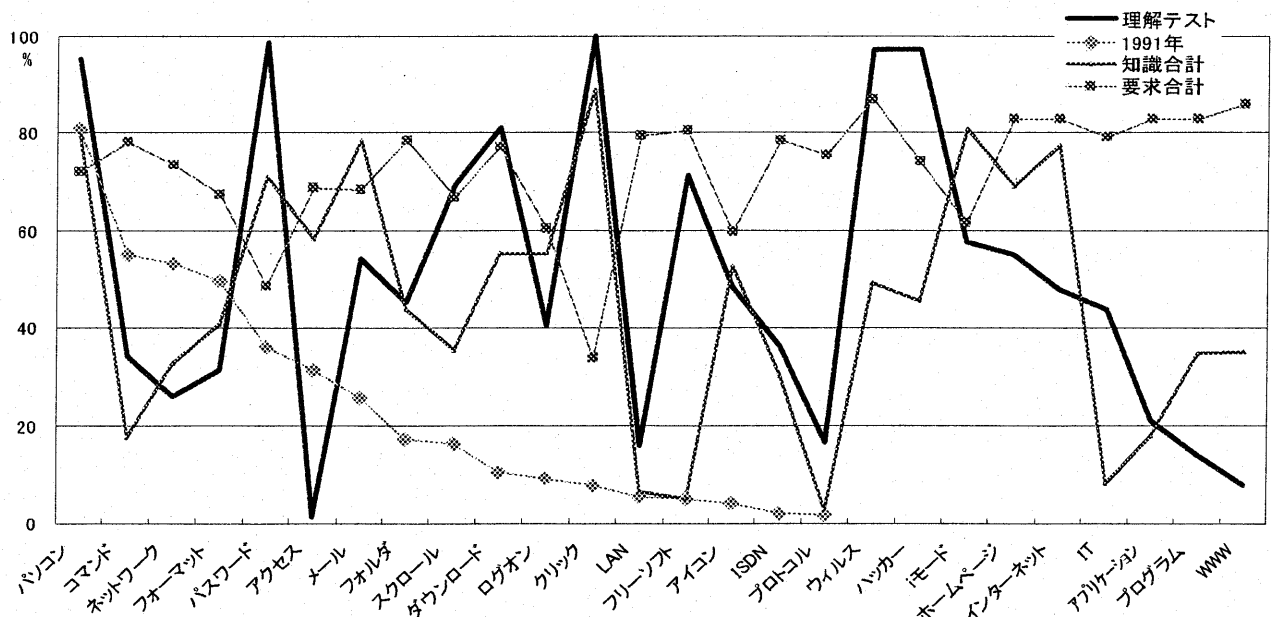


図2 1991年度の知識と今回の知識・要求・理解の割合